

2011 年度 入学 試験 問題

国 語

(試験時間 14:50~15:50 60分)

1. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
2. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
3. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
4. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
5. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、電算処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

— 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(40点)

漢字の機能を説明するのに、古来、「形」、「音」、「義」と言う。形に対して、義は内側の意味内容である。たとえば、明治初年に福沢諭吉など明六社の人たちは、*Society* の翻訳語として、「社会」という言葉を使うようになった。「社」も「会」も、人の集まりというような意味で、中国でも日本でもすでに使われていたので、何となく意味のつながりはある。が、*Society* には個人を基本とする目に見えないような広い範囲の人の集まりの意味があつて、それとは大いに違う。「社会」という言葉が、いまだかつて知らなかったような新しい言葉であるということは、人々はこの言葉の文脈によつて知るのである。たとえば、「社会の民」とか「人間社会」のような文中に置かれた「社会」は、どうも自分たちの知っていた意味ではない、分からない未知の言葉だ、と感じとる。そして同時にまた、こういう文脈を通じて、その未知の意味を理解していく。すなわち、言葉の意味内容からではなく、外側から、前後関係の中で、しだいにその意味内容に近づいていくわけである。

アルファベットなどの西洋語の文字は、表音文字と云つて、話し言葉の写しである。西洋言語学は、この事実から出発して、言葉の本質を、音と意味だけを中心に考え、文字についてはほとんど無視してきた。漢字理論における形、音、義から言えば、音と義だけを取り上げて、形が無視されてきたわけである。しかし、漢字にとつて形は非常に大事である、このことは、古来漢字文化圏で、書が人格の表現として、また芸術として大事にされてきたことによく表れている。西洋でもカリグラフィ *calligraphy* といつて文字をソウシヨク的に描くことがあつて、カリグラフィは「書」の翻訳語として使われるが、東洋の書とは比較にならない。アルファベットの筆記に人格を読みとる伝統は西洋にないし、表音文字にとつてそれは不可能であろう。古代日本に漢字が伝えられて以来、まもなく奈良時代の頃から、地名、そして人名などが、漢字二字で表記されるようになった。以後、日本における漢字造語は、二字の表記が原則になった。これは、漢字の本来、中国では、一語一字が原則であるのと対比された差別化である。とくに近代以後の西洋語の翻訳では、漢字を使いながら、漢字文化の意味とはずいぶん違った西洋文化の意味を表現するために、もとの漢字の意味にとらわれないように、一語二字の造語が原則になったのである。そして漢字の

読みは、日本語音では、一字が二拍となることが多い。それで、二字の日本語音は四拍が多くなるのである。しかし他方で、個人、化学などのように三拍になる例もかなりある。また語彙、価値などのように二拍の例も少数ある。

このような四拍または三拍などの言葉は、耳で聞いても、ひとかたまりに受け入れられる。(2)の多くは、助詞、助動

詞はもちろん、体言でも、ひ(日)、め(目)、やま(山)、ひと(人)などのように、また、い・い(好い)、ある・く(歩く)

などのように、一拍か二拍の音が単位となつてできている。それで、耳で聞いても、漢字二字でできた四拍、三拍の単位の言葉は、まとまって受け取れるのである。たとえば学術用語などを多く交えた話などを聞いていると、話の中に出てくる難しそうな言葉について、漢字でどう書くのかは分からなくても、何かしら漢字表現の専門語らしいことは感じ取れたりする。もちろん目で見れば、漢字表記の言葉は、ひらがな表記されることの多い(2)系の言葉とは区別されている。

こうして区別された漢字の言葉は、日本文の意味の中心部分を占めている。それで、漢字かな交じり文は、意味の理解に便利であると言われている。速読法などでよく言われているのだが、たとえば論文や社説のような難解な文章でも、漢字だけを目で追つていけば、だいたいの意味は早くつかめるといふ。同じように、耳で聞いても、漢字造語はキワだっている(3)ので、文全体の意味がつかみやすいのである。このような漢字音の構成を受け継いで、「セクハラ」、「アカハラ」とか「パソコン」、「デジカメ」、「テレクラ」のような、近代以後の西洋語の日本語音よみ、すなわち「外来語」も、四拍、または三拍に縮められて安定しているのである。

ところで、一般には、漢字造語の意味は、中国語におけるのと同じように、一字一語で考察されている。また漢字の意味という問題がとりあげられると、中国語での語源からの説明がよく行われることが多いのも、その例である。そこで漢字の造語力という問題も漢字一字単位で問題にされることになる。

しかし、近代以後、日本で多く用いられるようになって漢字造語の多くは、一字一語の言葉ではない。漢字二字単位の言葉が圧倒的に多い。とくに漢字二字の言葉は、学問や実務における中心的な意味を担っている。

(4)、翻訳語で、漢字一字で一語の意味が問題にできるのは、具体的な事物を指す言葉の場合であろう。これに対して、

とくに、観念的で抽象的な意味の言葉の翻訳語として使われている漢字二字の言葉では、その一字一字の意味を問題にするのは、あまり意味がないことが多い。たとえば、「意味」と「意義」との違いを、「味」と「義」の違いから考えていくのは、全くの見当違いである。「経済」の意味を、「経」の意味と「済」の意味から考えても、何も分らないはずである。「概念」、「理想」、「哲学」などの意味は、それらを構成している個々の漢字の意味とは、ほとんど無関係であると言つていいだろう。

(5)、このような翻訳語では、漢字としては意味を知り手掛かりはまことに乏しいので、とにかくまず、漢字二字の全体の形として、人々の目の前に出現していることになる。

(6)、近代日本の翻訳語のうちには、中国古典で古く使われていた二字一語の言葉が、そのままの形で、西洋語の翻訳語として用いられている例もある。たとえば、自然、観念、革命などである。この場合でも、字形は同じでも、その意味は古典的意味とは断絶している、と考えたほうがよい。たとえば「革命」とは、『易经』などに出てくる儒教の用語で、天の命が革命あらたまって王朝が交替することの意味であるが、近代西洋語の翻訳語では、主としてマルクシズム理論における revolution の翻訳語であつて、被支配階級が、支配階級の体制をクツガエす意味である。儒教の革命が、天が天子の命を、上から下へと革めるのに対して、近代西洋語の革命は、逆に下から上へと社会を変革する意味であつて、正反対に違つていたのである。

近代の初期、西周や福沢諭吉たちが、西洋語に直面して、これらを続々と日本語に造語して受け止めることができたのも、漢字輸入以後に日本人が身につけていた、まことに簡便な造語能力の伝統のおかげだったのである。

しかし、こうして意味の入れ物を容易につくりだせるということは、他面で、その内容が乏しくなる、空しくなる、ということである。

そして、漢字は、造語されたその内容の、意味の乏しき、空しさを気づかせない。意味の究極的な根拠は、目の前にある漢字の、いわばその彼方にある、というようなバクセン⁽⁸⁾とした感覚が私たちを捉えてきた。それは、基本的に輸入品だったからである。遠い昔に、彼方から海を越えてやってきた舶来品だったからだ。その舶来品としての高級感や香りが漂っている。生まれた子につけた「陽(はる)菜(な)」という名前からは、何かしら言い知れぬような、暖かさとか、優しさとか、その文字の向

こうから漂ってくる。人がつくったばかりの言葉であるにもかかわらず、つくり出された直後から、それは単なる作り物ではないように見えてくる。

私たちが漢字を受け取ったのは、千数百年前のことだった。その頃の舶来品が、なぜいまだに舶来品感覚の存在なのか。それは日本語独自の構造によるので、漢字の言葉を、やまとことは系の言葉と区別し、難解、高級な概念を担う役割を、もつばら漢字にあたえてきたからだ。

かつて、近代の始め、先人たちがつくり出した翻訳造語、「社会」や、「個人」や、「近代」や、「恋愛」も、そういう感覚の上に造語されていたのだ。

重要なことは、漢字造語はその形に依存しているにもかかわらず、その意味こそが大事なのだ、という思い込みが、多くの人々に抱かれていることである。今日の大きな漢和辞典では、漢字の字数はおよそ五万語、これだけあれば、⁽⁹⁾シンラバンショウ、どんな意味でも表現できるはず、というような思い込みである。それはもちろん間違いであって、その表記された意味の範囲は、中国伝統文化におけるシンラバンショウに限られている。しかし、古代以来、漢字文化の恩恵を蒙^{こう}ってきた日本人の間では、この種の思い込みの根は深く、今日にまで及び、日本語研究の専門家の間にさえ受け継がれている。

日本語における漢字の意味、とくに翻訳造語においては、もとの中国語における意味とはずいぶん違っている、ということをお私は述べてきた。このことは、私はとくに強調したい。というのは、これはふつう極めて気づかれにくい現象だからである。およそ言葉の構造は、全体として閉じている。それで、異質な構造からの意味は、自ずと排除される。翻訳とは、まさに異質な構造との出会いから始まる。一つの言語の中に生きている人は、言葉全体の持つ構造からはずれた意味や形は、極めてとらえにくくなる。人々の意識では、とかく異質な意味は無意識化されてしまうのだ。

翻訳造語における漢字のこういう基本的な性格は、今日ではいわゆる「外来語」に受け継がれている、と私は考えている。

西洋語に由来するカタカナ表記の言葉は、日本語の中では、「外来語」とふつう言われているが、これは、以上述べてきた漢字の役割を受け継いでいる、と考えられる。「外来語」と言われるのは、主として漢字の翻訳造語と区別して、そう名付けられ

ている。翻訳という経過を経ないで、「外」国から「来」た言葉が、そのまま日本語の中に入ってきている、というような思い込みがある。翻訳語が結局日本語になっているのに対して、原語である西洋語にもっと近い、という語感が含まれているのだが、それは多分に誤解に基づいていると思う。それで私は、⁽⁹⁾ここでは、この外来語という言葉には括弧「」をつけて使っている。

「外来語」が、「外来」の「語」であるよりも、翻訳語としての日本語に近いというのは、第一に、その発音である。日本語の漢字音が、その原語の中国語音と、似てはいても異なっているのと同様に、カタカナ表記された「外来語」の音は、アルファベットの西洋語とは異なっている。「リアリズム」は、realism とは違う。「ライト」という日本語音の「外来語」だけでは、right のことか light のことかは分からない。日本語の中の漢字が日本語であるのと同様、カタカナ表記の「外来語」も日本語であるというべきだろう。そして、既に述べたように、「パソコン」とか「テレビ」のように、その省略形が広く使われていて、漢字の単語の音のように、四拍や三拍の音で安定する例が多いのも、漢字の性格を受け継いでいる証拠の一つであろう。

次にその意味であるが、既に述べたように、翻訳語としての漢字造語における漢字の意味が、中国語の意味とは一応切れているのと同様に、「外来語」もまた、原語の西洋語の意味とはずいぶん違っている。ほとんどの「外来語」は、その出現の当初は意味の乏しい言葉で、やがてある程度定着してくると、その原語の意味とは、どこか違った日本語の意味になっている。一般に翻訳語では、その意味は、もとの原語の意味の一部を伝えるが、意味領域は必ず狭くなっている。原語の意味のどこかを必ず落としている。そして、ここで私が強調しておきたいのは、そのことが人々に気づかれない、無意識化されている、ということである。

(柳父章『近代日本語の思想』による)

〔問一〕 傍線(1)(3)(7)(8)(9)のカタカナを漢字に改めなさい。(楷書で正確に書くこと)

〔問二〕 空欄(2)に共通して入る六字以内の語を本文の中から探し出して答えなさい。

〔問三〕 空欄(4)(5)(6)に入れるのもっとも適当なものをそれぞれA―Eの中から選び、符号で答えなさい。

(4)

A	そうであれば
B	一般には
C	けつきよく
D	要するに
E	要は

(5)

A	もちろん
B	なおかつ
C	すなわち
D	さらに
E	さしずめ

(6)

A	それゆえ
B	もつとも
C	そのうえ
D	したがって
E	結論を言えば

〔問四〕 傍線(10)「私は、ここでは、この外来語という言葉には括弧」をつけて使っている」とあるが、「私」がそうするの

はなぜか。もっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 外来語は主として西洋つまり「外」国から「来」た言葉であり、漢字の翻訳造語と区別するため。
- B 外来語は漢字の翻訳造語と異なり、翻訳という経過を経っていないということを明確に示すため。
- C 外来語は異質な背景があるのに、それを意識化しにくいので、注意を喚起するため。
- D 外来語の発音や意味は原語のそれと当初は異なったものではなかったと考えているため。
- E 外来語は必ず日本語の構造の中におさまるものだ、ということを意識してもらいたいため。

〔問五〕 次の文ア、オのうち、本文の著者の考えと合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答えなさい。

ア 翻訳造語には一語二字四拍のものが多く、耳で聞いてもまとまって受け取られるが、このことは外来語が四拍で安定していることと無関係ではない。

イ 漢字造語について、どんな意味でも表現できるといえるのは、漢字の圧倒的な数量の多さから来ていると言っても過言ではない。

ウ 近代以降、西洋語の到来によって漢字はその西洋語の翻訳造語という新しい使命を帯びることになったので、舶来品としての高級感や香りなどを漂わせている。

エ 近代になって新たにつくられた翻訳造語について、人々は漢字機能「形」、「音」、「義」のうち、主として「形」によつて、その意味を知ることになった。

オ 書が人格の表現として、また芸術として大事にされてきたことは、漢字にとつての形の重要性を物語っている。

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(30点)

聖書に「ヨブ記」という話があります。篤信の人ヨブが突然、何の理由もなく、不幸のどん底に陥り、財産を失い、家族を失い、業病に取り憑かれ、ついに天を呪うに至る……という話です。ヨブはこう呼ばわれます。「私に教えよ。そうすれば、私は黙ろう。私がどんなあやまちを犯したか。」「私の目はこれのことごとく見た。私の耳はこれを聞いて悟った。」「自分は悪いことを何一つしていない。だから、この罰は不当である。これを義とすることはできない。ヨブはそう言い張ります。それに対して神の言葉が下ります。

「わたしはあなたに尋ねる。わたしに示せ。わたしが地の基を定めたとき、あなたはどこにいたのか。」「あなたは海の源まで行ったことがあるのか。深い淵の奥底を歩き回ったことがあるのか。死の門があなたに現れたことがあるのか。あなたは死の陰の門を見たことがあるのか。あなたは地の広さを見きわめたことがあるのか。そのすべてを知っているなら、告げてみよ。」

自分の存在の起源について人間は語ることはできません。空間がどこから始まり、終わるのか、時間がどこで始まり、終わるのか。私たちがその中で生き死にしている制度は、言語も、親族も、交換も、貨幣も、欲望も、その起源を私たちは知りません。私たちはすでにルールが決められ、すでにゲームの始まっている競技場に、後から、プレイヤーとして加わっています。私たちはそのゲームのルールを、ゲームを通じて学ぶしかない。ゲームのルールがわかるまで忍耐よく待つしかない。そういう仕方では人間はこの世界にかかわっている。それが人間は本態的にその世界に対して遅れているということです。それが「ヨブ記」の、広くはユダヤ教の教えです。

ふつうの欧米の人はこういう考え方をしません。過ちを犯したので処罰され、善行をなしたので報酬を受けるというのは(1)である。けれども、処罰と報酬の規準が開示されておらず、下された処罰や報酬の規準は人知を超えているというような物語をうまく呑み込むことができない。どうして、私たちが「世界に対して遅れている」ということから出発しなければならぬのか、と彼らは反問するでしょう。まず、われわれが「世界はかくあるべき」という条件を決めるところから始めるべきで

はないのか、と。不思議なことに、ヨーロッパ人には呑み込みにくいらしいこういう考え方が私たち日本人には意外に腑に落ちる。

ゲームはもう始まっていて、私たちはそこに後からむりやり参加させられた。そのルールは私たちが制定したものではない。でも、それを学ぶしかない。そのルールや、そのルールに基づく勝敗の適否については（勝ったものが正しいとか、負けたものこそ無垢の被害者だとかいう）(3)な判断は保留しなければならぬ。なにしろこれが何のゲームかさえ私たちにはよくわかっていないのだから。

日本人はこういう考え方にあまり抵抗がない。(4) 現実にそうだから。それが私たちの実感だから。ゲームに遅れて参加してきたので、どうしてこんなゲームをしなくちゃいけないのか、何のための、何を選別し、何を実現するためのゲームなのか、どうもいまひとつ意味がわからないのだけれど、とにかくやるしかない。

これが近代化以降の日本人の(5)なマインドです。そして、このマインドは、(6)ある部分までは近代史の状況的与件に強いられたものですけれど、日本列島住民が古代からゆつくりと形成してきた心性・靈性にも根の先端が届いている。私はそうではないかと思えます。

辺境人にとって「起源からの遅れ」はその本態です。日本人の国民性格には深々と「遅れ」の刻印が捺されています。それが(7)悪い出方をすれば、「虎の威を借る狐」になる。でも、よい出方をすることもある。「起源からの遅れ」という構造特性が「よい出方」をすれば、どうなるのか。あるいはどうすれば「よい出方」をするのか。

社会的制度のうちには、「本源的な遅れ」という考察を前提にしないとうまく機能しないものがあります。一つは師弟関係です。

私たちがものを学ぶとき、私たちは師を選ばなければなりません。ところが、私たちがこれから学ぼうとしている技艺や学問についてはたたくさんの専門家がいて、それぞれに流派を立て、持論を説いている。私たちはその中から「自分の師」を選ばなければならぬ。でも、私たちにはどの人が私の師にふさわしいのかを(8)視座から言うことができない。というのも、そ

の技術や知識について (8) 視座から一望することができないということが私たちがそれを学びたいと望んでいる当の理由だからです。

ほとんどの場合、私たちは学びたいと望んでいるものについて重要なことを何も知りません。「どうでもいいことを少しだけ知っているが、肝腎なことは何も知らない」というくらいの無知のレベルにいるときが、ものを学ぶ動機はもつとも高い。

私は合気道という武道を長く修業し、今は道場も開いて、それなりの数の門人もいますが、三十数年前に入門したとき、この武道について知っていることはゼロでした。能楽もかなり長く稽古けいこしていますが、これも入門するときに持っていた知識はほとんどゼロでした。ですから、私が「私の師」を選んだとき、私はいくつかの選択肢、何人かの師を比較考量し、吟味の上で、その中で客観的に見てもつともすぐれたものを採用するということをしていません。そして、私たちはそれがおかしいとは少しも思わない。師に就いて学ぶというのはそういうことだからです。

これは日本人が「国のモデル」を採用するときにしてのことと同じことです。私たちは国のあるべき方向を決めるときにも、師弟関係に準拠してことを行っている。それは師弟関係というものがきわめてすぐれた（おそらく考え得る最高の）「学習装置」であると日本人がどこかで信じているからです。

もし、ものを学ぼうとしている人に、「就いて学ぶべき師を正しく選択できるように、師たちを客観的に適正に格付けできる予備的能力」を要求したらどうなるでしょう。そんな予備的能力を要求されたら、私たちは一生学び始めることができないでしょう。学び始めるためには、「何だかわからないけれど、この人についていこう」という清水の舞台から飛び降りるような覚悟が必要だからです。そして、この予備的な考查抜きで、いきなり、「清水の舞台から飛び降りる覚悟」を持つことについては、私たち日本人はどうやら例外的な才能に恵まれている。

（内田樹『日本辺境論』による）

〔問一〕 空欄(1)(3)(5)(8)に入れるのに、もつとも適当なものをそれぞれ左の中から選び、符号で答えなさい。ただし、同じものを繰り返し答えてはならない。

- A 基本的 B 乖離的乖離 C 包括的 D 偶然的 E 合理的 F 相対的 G 俯瞰的俯瞰

〔問二〕 傍線(2)「不思議なことに」というのは、なにが「不思議」なのか。もつとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A ある行為に対する処罰と報酬の規準がわからず、下された処罰や報酬の規準が人知を超えているということ。
B 「世界に対して遅れている」という感覚は、世界の辺境に住む日本人にとって、とても親しみやすいということ。
C 人間は、もともと世界に対して遅れているのに、むりやり世界のゲームに参加しなければならないということ。
D 欧米に影響を与えた聖書に出てくる考え方なのに、ヨーロッパ人よりも日本人の方が受け容れやすいということ。
E 旧約聖書の「ヨブ記」の物語に出てくる考え方なのに、ふつうの欧米人にとっては、とても異質であるということ。

〔問三〕 傍線(4)「抵抗がない」と、ほぼ同じ意味に使われている五字以内の語句を、本文中から探し出して答えなさい。

〔問四〕 傍線(6)「ある部分までは近代史の状況的与件に強いられたものですけれど、日本列島住民が古代からゆつくりと形成してきた心性・靈性にも根の先端が届いている」とは、どのようなことか。もつとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 近代化によって日本は欧米からさまざまなものを受け容れたが、「世界はかくあるべき」という条件を決めるような心性は、受け容れなかったということ。

B 明治期からヨーロッパに甚大な影響を受け、近代のゲームに選れて参加した日本人は、そもそも「世界に対する遅れ」への抵抗をそれ以前からあまりもつていなかったということ。

C 近代以降の日本人のマインドにはどんな状況も受容できるという柔軟さがあり、この柔軟さは古代からゆつくり形成されてきたということ。

D 日本も明治以降、世界的な近代化の波に呑み込まれたが、似たような波は古代から何度も日本を襲ってきていたということ。

E 古代から日本人には何事もあきらめるといふ心性・靈性があるので、近代化のゲームにも何の違和感もなく適応できたということ。

〔問五〕 傍線(7)「悪い出方をすれば、「虎の威を借る狐」になる」の例として、もつとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A ヨーロッパの物理学者を中心に発展してきた素粒子論を利用して、日本人が新たな発見をすること。
- B 日本古来の神道こそが真の宗教であると考え、キリスト教や仏教などを排斥すること。
- C 西欧近代科学の背景をなす思想をよく知らずに、その結果である科学文明を日本人が謳歌おうちかしていること。
- D 日本人がインドで発生した仏教の考え方を曲解して、仏教を葬式のためだけに使っていること。
- E 武士階級が中国起源の儒学を人間のもつともすぐれた教えだと考え、日本人の生活に強引に当てはめること。

〔問六〕 傍線(9)「日本人が「国のモデル」を採用するときに行っていること」とは、どのようなことか。もつとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 外国に遅れていることをしつかり認めたくえで、もつとも適切な国をモデルに選ぶこと。
- B さまざまな外国を客観的に観察し、その中から日本のモデルにふさわしい国を選ぶこと。
- C どの国が日本のあり方に適しているかわからないので、よさそうな国を思い切つてモデルに選ぶこと。
- D 他国の格付けをする能力がある程度身につけたうえで、もつともすぐれた国をモデルに選ぶこと。
- E ほかの国についての知識が欠如したまま、もつとも国力がありそうな国をモデルとして選ぶこと。

三 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(30点)

今は昔、河原の院は、融とほの左大臣の造りて住みたまひける家なり。陸奥の国の塩籠しほがまの形を造りて、潮の水を汲み入れて、池に湛たへたりけり。さまざまにめでたくをかしき事の限りを造りて住みたまひけるを、その大臣おとど失せて後は、その子孫にてありける人の、宇多の院に奉りたりけるなり。

さて院の住ませたまひける時に、夜半ばかりに、西の対の塗籠ぬりかごを開けて、人のそよめきて参る気色のありければ、院見やらせたまひけるに、⁽³⁾日の装束まゝうるはしくしたる人の太刀帯はきて笏しやく取り、かしこまりて、二間ばかり去のきて居たりけるを、院、「あれは何人ぞ」と問はせたまひければ、「この家の主ぬしにさぶらふ翁おきななり」と申しければ、院、「融の大臣か」と問はせたまひければ、「さにさぶらふ」と申すに、院、「それは何ぞ」と問はせたまへば、「家にさぶらへば住みさぶらふに、かくおはしませば、かたじけなく所(4)せく思(5)ひたまふるなり。いかがつかうまつるべき」と申せば、院、「それはいと異こと様の事なり。我(6)は人の家をやは押し取りて居たる。大臣の子孫の得させたればこそ任せ。ものの靈なりといへども、事の理ことわりをも知らず、いかでかくはいふぞ」と高やかに仰せたまひければ、靈かき消けつ様に失せにけり。その後また現るる事なかりけり。その時の人、この事を聞きて、院をぞかたじけなく申しける、なほただ人には似させたまはざりけり。この大臣の靈にあひてかやうに(8)すくやかに異人ことびとはえ答へじかしとぞいひける、となむ語り伝へたとや。

〔今昔物語集〕による

注 融の左大臣……源融。嵯峨天皇の皇子。

塗籠……周囲を壁で塗り込め、入口に遣り戸をつけた部屋。

宇多の院……宇多上皇。

〔問一〕 傍線(1)「めでたく」、(2)「失せて」、(4)「所せく」、(8)「すぐやかに」の各語の解釈として、もつとも適當なものをそれ
 ぞれA～Dの中から選び、符号で答えなさい。

(1) めでたく

- | | |
|---|------|
| A | みごとに |
| B | かわいく |
| C | 幸福に |
| D | うれしく |

(2) 失せて

- | | |
|---|----------|
| A | 亡くなって |
| B | 行方不明になって |
| C | 忘れてしまつて |
| D | 見えなくなつて |

(4) 所せく

- | | |
|---|-------|
| A | 憂鬱に |
| B | 恐ろしく |
| C | かたくなに |
| D | 窮屈に |

(8) すぐやかに

- | | |
|---|-------|
| A | 素直に |
| B | 物おじせず |
| C | すすくと |
| D | すぐに |

〔問二〕 傍線(3)「日の装束うるはしくしたる人」は、誰のことか。もつとも適當なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 宇多の院 B 大臣の子孫 C 時の人 D ただ人 E 大臣の靈

〔問三〕 傍線(5)「たまふる」の文法的な説明として、もつとも適當なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A ラ行上二段活用補助動詞の終止形、謙讓の意味を表す。
 B 八行四段活用補助動詞の連体形、尊敬の意味を表す。
 C ラ行変格活用補助動詞の終止形、丁寧の意味を表す。
 D 八行下二段活用補助動詞の連体形、謙讓の意味を表す。
 E ラ行下二段活用補助動詞の連体形、受身の意味を表す。

〔問四〕 傍線(6)「人の家をやは押し取りて居たる」の解釈として、もつとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 他人の家を無理に奪い取って、住んでいたのかもしれないなあ。
- B 他人の家を無理に奪い取って、住めたとしたらどんなによいことか。
- C 他人の家を無理に奪い取って、住んでいるわけではない。
- D 他人の家を無理に奪い取って、住んでいたとはしらなかった。
- E 他人の家を無理に奪い取って、住んでいるとはひどいことをする。

〔問五〕 傍線(7)「その時の人、この事を聞きて、院をぞかたじけなく申しける」の解釈として、もつとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A そこに居あわせた人はこれを聞いて、宇多の院はすごい方だと申し上げた。
- B その頃うわさになった人はこれを聞いて、宇多の院に申しわけないと申し上げた。
- C 当時の人はこれを聞いて、宇多の院をおそれ多い方だと申し上げた。
- D その頃栄えた人はこれを聞いて、宇多の院のことを残念に思って申し上げた。
- E そこに居あわせた人はこれを聞いて、宇多の院はひどいと思って申し上げた。